
観れば酷いことに

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

観れば酷いことに

【Nコード】

N0422S

【作者名】

坂田火魯志

【あらすじ】

弘泰は阪神の試合を観ていた。だが観る度に酷いことになっていき。SmileJapan企画作品です。ちよつと最後を捻ったコメディです。

第一章

観れば酷いことに

この日中山弘泰は自分の部屋のテレビで野球の試合を観ていた。

カードは阪神対横浜である。彼は阪神ファンでありそうしてだ。その試合でも当然阪神を応援していた。

ところがだ。その阪神はというと。

負けていた。まずはだ。

先制点を取られた。そこで彼は家族に呼ばれた。何かというと夕食だった。それを食べるに一階で夕食を食べる。それから戻るとだった。

テレビをまた観る。すると。

テレビを点けたその瞬間にだった。横浜のローズが打ちだ。ランナーが次々と帰ってきた。それで今度は体力得点だった。

それでスコアボードを観ればだ。その有様は。

「何だよ、まずいなこれ」

何と一対五だ。横浜が勝っていた。彼がテレビを点けるとだった。どうもその度に得点が入っているような気がしてきた。

それで不機嫌になってしまった。だがそれでも試合を観る。確かに今は阪神にとってよくない状況である。しかし彼はその状況に諦めてはいなかった。

「観てたら逆転する可能性だつてあるしな」

そこかけたのである。確かに今は負けている、だが野球は逆転があるスポーツだ。だからだ。彼は阪神を信じてそれで試合を観続けるのだった。

試合は終盤に入ろうとしていた。横浜優勢のまま進もうとしていた。ここであった。

第二章

また家族に下から呼ばれた。今度はお風呂だった。

それでお風呂にさっと入ってまたテレビを点けた。するとだ。

またしても阪神にとって危険な状況になっていたのだ。何と満塁である。

バッターボックスにいるのは佐伯貴弘だ。横浜の主力選手の一人である。だがこの時彼はお世辞にも好調とは言えない状況だった。

「今の佐伯なら大丈夫かな」

弘泰もそう考えた。この危機は乗り越えられると思った。

そしてだ。危機を乗り越えた後のことも考えたのである。

ピンチの後にはチャンスあり、彼が考えたのはこのことだった。

ここを踏ん張れば阪神の逆転の可能性もある、そう意気込んで観たのである。

しかし彼は知らなかった。佐伯にはこうした話があるのだ。

年に数回かなりの美男子になり必ず打つとだ。そしてそれはだ。

今だった。今まさにだ。彼はその美男子になったのである。

その美男子になった佐伯のバットが一閃した。そうしてボールは一直線に飛びスタンドに飛び込んだ。見事な満塁ホームランであった。

「なっ、何でだよ」

弘泰はそのホームランを観て啞然となった。言うまでもなく四点入った。

試合はこれで決定的になってしまった。結局横浜はそのまま試合に勝ちだ。阪神は本拠地において敗れるという屈辱を味わったのである。

彼はだ。観終わってからこう呟いた。肩をがっくりと落としながら。

「何か今日は観る度に相手チームの点が入っていったな」

これが彼の眩きだった。そしてそう眩いてからだ。ベッドに入り寝てしまった。所謂不貞寝である。

これは二〇〇〇年六月一日のことである。この時期阪神は弱かった。とにかくあまりにも弱かった。

その中ではこうした試合もあった。それも実によくあった。所謂暗黒時代である。

阪神の弱かった時代を知る人は誰もが言う。あの頃は本当にそれが永遠に続くかと思ったと。

弘泰も言う。この試合のことも含めてだ。阪神が如何に弱かったかを。

しかしそれでも彼はその時阪神ファンであり続けた。それは何故か。彼は言うのだった。

「阪神が好きだからだよ」

満面の笑顔で言うのである。彼は今も阪神ファンだ。例えこれから何があるうとも。

観れば酷いことに 完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0422s/>

観れば酷いことに

2011年10月3日00時09分発行